

## 大回り乗車

神村ふじを

大回り乗車。耳慣れない言葉だと思うが、鉄道ファン通称鉄ちゃんと呼ばれる人たちにとっては珍しくも何ともない言葉なのかも知れない。鉄ちゃんにも、列車に乗って楽しむ「乗り鉄」、写真を撮って楽しむ「撮り鉄」などいろいろ種類があつて、中には車両を専門に研究する「車両鉄」、車両の音の違いを楽しむ「音鉄」というマニアックなものまであるというのだから凄い（す）のひと言である。

鉄道文化という言葉があるかどうか不確かだが、枝葉を広げた鉄道のそれぞれの分野に専門性、文化性っぽいものを感じるし、こと鉄道に必要な以上に興味を示す鉄ちゃんたちは、意味ある文化だと言ひ張るに違いない。

かく言う私も、駅の近くで育つたため、SLの汽笛を目覚まし時計代わりにしていた。高校へもSLで通つた。日に一度はSLを見ないと落ち着かなかつた。子どもの頃から知らず知らず鉄分が

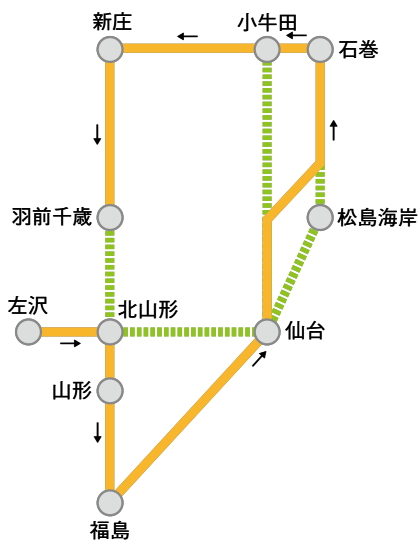
体に染みついてしまったのである。

「大回り乗車」は鉄ちゃん用語で、正確には「選択乗車」である。JRには「旅客営業規則」なるものがあり、「選択乗車」について以下のように規定されている。

「旅客は、次の各号に掲げる各駅相互間を、普通乗車券又は普通回数乗車券によって旅行する場合は、その所持する乗車券の券面に表示された経路にかかわらず、各号の末尾に記載した同一かつこの内の区間又は経路のいずれか一方を選択して乗車することができる。ただし、他方の経路の乗車中においては途中下車をすることができない」（抜粋）

つまり、「A駅からB駅まで行くのに複数の方法がある場合、どれを選択しても構わないですよ。ただし、最短距離で行かない場合は、途中下車はできませんよ」と言っているのである。これが乗り鉄の心に火をつけた。鉄道好きには少しでも長く乗れるのに越したことはないのです。「選択乗車」のことを「大回り乗車」と言い換えて、乗り鉄はもっぱら楽しんでるのである。

私はフルーツラインあそびまわ左沢線の終着駅左沢に住んでいるので、図のように大回り乗車を計画した。



左沢／羽前千歳までは片道500円、羽前千歳には親戚も友人もいないのでどうでもいい場所なのだが、大回り乗車するには格好の駅なのである。左沢／山形／米沢／福島／仙台／石巻／小牛田こごた／新庄／羽前千歳と大回りをする事によって、27・2kmが418・2kmとなり、普通に乗れば6800円の運賃がかかることを何と500円で片道楽しめるといわけだ。

4月5日（木）朝一番の左沢線に乗った。5時52分発である。新学期はまだ始まっておらず、学生の姿もまばら。ゆっくり旅を楽しめる。沿線はまだ枯野に近い。笹の葉と水仙の緑がやけに目立っている。最上川は雪解水を満々と湛え、遠く日本海に向かってゆっくり流れている。

山形着6時36分、7時11分発の米沢行に乗り換える。米沢行は女性の運転士。最近、車掌も運転士も女性が増えてきた。蔵王山に日が高く昇って行く。茂吉の生家がある金瓶かなかめは左側。上山温泉駅を過ぎると田園地帯に不釣り合いな超高層マンション「スカイタワー41」が目を引く。何でもマンションの高さとしては東北一らしい。ひところ江口洋介と森高千里夫妻が部屋を購入したとか、上山高松葉山温泉の高級旅館「古窯」の社長が最上階を買い占めたとか噂があったが、今はどうなっているのだろうか。

鬼県令と恐れられた三島通庸みらつねが羽州街道に架けた石造りの「堅磐橋かきわ」、通称眼鏡橋が見えてきた。石橋の出来ばえが見事であったために、竣工した当時は見物人で賑わい、橋の袂には茶屋もできたという。羽前中山駅を過ぎれば南陽市である。

列車は右側にカーブをして鳥上坂を左下に見る。米沢盆地がかつて湖だった名残りの白竜湖も見える。列車は赤湯の町を大きく迂回して、上野樹里主演の映画『スウィングガールズ』で一躍有名になったフラワー長井線と合流し赤湯駅へ。

右に飯豊連峰いいで、正面に吾妻連峰と雪をいただく山々を見ながら一路米沢へ。米沢牛と米沢ラーメンで名を馳せる上杉の城下町米沢。細打ち縮れ麺と鶏ガラを使ったあつさりとした醤油味の米沢ラーメン。ひと山越した喜多方は豚骨ベースで平打ちの太麺。縮れは同じでもここはラーメン文化の違いを感じる。

次は米沢8時07分発の福島行。いよいよ板谷峠越えである。米沢／福島間約40km。スイッチバックの時代は3時間かかっていたそうだが、1000分の33・3の上り勾配も電車は楽々登り、50分足らずで福島に着く。スイッチバック時代の名残り、峠の力餅の売り声が峠駅のホームに響く。

福島／仙台間は福島発8時56分のシテイラビット1号、快速電車である。桑折駅こわりを過ぎる頃から伊達郡内が一望できる。ここは元々米沢藩領で米沢との関わりが深い。数え年12歳の愛姫めづが、三春から米沢の伊達政宗の許に嫁いだ際、雪深い板谷峠を避けて通ったのが左に見える小坂峠。今の仙台の繁栄の基礎を築いた伊達政宗を思い起こせば、また電車の旅も楽しさが増すというものである。

電車は快調に北上し宮城県内へ。白石城の遠景もいいが、ここの見どころは何と言っても大河原

（船岡間の一目千本桜。白石川沿いにそれこそ文字通りに千本余りの桜が植えられてある。開花期間、電車は減速運転という心憎い演出をしてくれる。右には船岡城址。伊達騒動を題材にした山本周五郎の小説「樅の木は残った」の主人公として登場する原田甲斐宗輔の居城であった。電車は一路仙台へ。

10時12分仙台着。3分の待ち合わせで仙石東北ライン石巻行に乗車する。東日本大震災で大打撃を受けた仙石線。仙台と宮城県第二の都市石巻を結んでいる。復興のシンボルとでもいうべき仙石東北ライン。塩釜まで東北本線を走り、松島近くで仙石線と接続。高城町から仙石線で一路石巻へ。奥松島の海は大津波の惨状を微塵も感じさせない穏やかな海だった。

石巻着11時17分、石巻線小牛田行の出発には35分ほど間がある。何とか昼食を調達せねば……。大回り乗車は途中下車ができない。これがなかなかの曲者で、ホームの売店でないと買うことができない。仙台駅で買うべきだったが、3分の待ち合わせではどうにもならなかった。後の祭りである。ところが、である。ここ石巻駅には「マンガタンカフェ・えき」が併設されている。ホームからでも外からでも入れるすぐれもののカフェ。明太子スパゲティセットで空腹を満たすことができた。

石巻線小牛田行は11時52分発。曾波神を過ぎた辺りからのどかな田園風景が続く。鹿又駅で下り女川行と列車交換。旧北上川の堤防に咲く菜の花の大群落が心を和ませてくれる。秋の山唄にうた

われた麓岳山を右に見て列車は涌谷駅に。涌谷を過ぎればまもなく小牛田駅だ。

宮城県遠田郡美里町にある小牛田駅は、石巻線、東北本線、陸羽東線の接続駅で、隣接する小牛田運輸区には運用のないDC（ディーゼルカー）がたむろしていた。この辺の言い方が少し鉄オタっぽいところだが、宮城・山形で使われるDCが集中して配備されている。

小牛田発13時34分の陸羽東線鳴子温泉行に乗車する。奥の細道湯けむりライン。川渡、鳴子、中山平、赤倉、瀬見と新庄まで温泉が連なっている。

鳴子温泉駅で新庄行にスムーズに乗り継ぐことができた。列車は一路新庄へ。松尾芭蕉と門人曾良が元禄2（1689）年に旅したこの地。通行手形を持たなかったために大変あやしまれ、厳しい取り調べを受けようやく通過したと記録に残る「尿前の関」は右側。列車は県境を越えて堺田駅へ滑り込む。

急峻な峠は見当たらないが、陸前と出羽の国境、太平洋と日本海の分水嶺の駅である。芭蕉が「蚤虱馬が尿する枕元」と詠んだ封人の家（旧有路家住宅）もすぐ近くだ。

立小路、最上、大堀、鶉杉と列車は進む。最上路の春は遅く、田んぼにはまだ多くの雪があり、小さな堰も雪解水に溢れていた。

16時04分新庄着。山形県の鳥おしどりをあしらった新幹線つばさ号が出迎えてくれた。山形新幹線は平成11（1999）年12月に新庄まで延伸され、集客状況もますますだと聞く。

何でも秋田新幹線より走行距離の関係で数千円安く東京に行けるとかで、湯沢、横手方面からの乗客も結構おり、新庄駅の東側にはパーク&ライドのための無料駐車場が完備されている。

10分の待ち合わせで山形線山形行、最後の列車である。羽前千歳までは約1時間、ここまで往路の切符、ここから復路の切符を使う。北山形で左沢線に乗り換えて、18時13分、無事左沢に戻ることもできた。

選択乗車は、路線図を見てもらえば分かるように、一筆書きの要領で行うことが条件であり、一部重なってしまうとアウトになるので、注意が必要である。

さらに途中下車ができないのはなかなかきつくて、ホームからしか町の様子をうかがうことができないので、せっかく行ったのにもったいないと思ったことも事実である。乗り鉄からしたら、乗っただけでも大満足だろうに、乗り鉄魂が足りないと言われるそうである。

今回の420km大回り乗車。回ってみて感じたのは、山形、福島、宮城3県それぞれの春があったということである。桃の福島、桜の宮城、水仙の山形、山形の春が一番遅かったが、春爛漫の奥州路であった。また秋にもぜひ計画したいものである。

